

小学校英語活動に関する意識の違い 教員、ALT、管理職、指導主事を対象とした聞き取り調査より

池田 真生子 (関西大学)
今井 裕之 (関西大学)
竹内 理 (関西大学)

1. はじめに

2020年度に予定されている学習指導要領改訂を前に、外国語(英語)活動(以降:外活)の更なる充実と教員研修が急務とされている。特に、その主たる担い手である現職教員にとっては、校内研修が重要となってきた。より効果的な校内研修のためには、研修に関わる人々が、その目的や内容、授業の運営方法などについて共通の認識を持っていることが重要となる。

しかし先行研究では、担任のみ、または担任とALTの2者についての意識調査はあるものの(池田, 2008; 粕谷, 2008), それ以外の立場にある人々も含めたより大きな枠組みでの研究は、発表者らの知る限りほとんど存在しない。池田(2012)においては、管理職、担任団、専門技能者(ALTなど)の関係性の重要性について提唱しているものの、実証的な研究には至っていない。そこで、本研究では、立場の異なる4者の認識について聞き取り調査をすることで、よりよい校内研修制度の構築に向けて提案していくこととした。

2. 研究の目的

同じ環境(=市内)にしながら立場の異なる4者、つまり(1)教諭、(2)ALT、(3)管理職教員、(4)指導主事の間、公立小学校での外国語(英語)活動についての認識に共通性や違いがみられるのか、またみられる場合にはどのようなものなのかを明らかにする。

3. 研究方法

参加者は、A市の(1)小学校教諭56名、(2)ALT2名、(3)校長および教頭4名、そして(4)小学校英語指導主事1名であった。

データ収集では、小学校教諭に対しては、各校ごとにグループ・インタビューを実施し、それ以外の参加者には個別インタビューを実施した。インタビューは、いずれの場合も以下(A)~(D)の同じ項目についての半構造型とした。

- (A) 小学校英語活動全般
- (B) 授業の運営
- (C) 研修制度
- (D) その他

データは、文字化された音声データを SQRM (西條, 2007, 2008) にもとづいて分析し、(a) スクリプトをセグメント化した後、(b) オープン・コーディング、(c) コーディングのカテゴリー化、(4) カテゴリーのモデル化を経て、各者の認識の図式化を試みた。

4. 結果

インタビューで調査した項目(A)~(D)のうち、(A) 小学校英語活動全般、および(C) 研修制度、そしてまた、(B)授業の運営の中でも、物理的環境については、4者の中で意識に大きなズレはなく、共通点がみられる傾向にあった。

一方、(B)授業の運営のうち、ティーム・ティーチングについて、そして(D)その他で挙げられた不安な点については、4者の中でも認識の違いがみられた。特に、同じ教室で一緒に授業をする立場にある小学校教諭とALTの認識の違いが明確であった。小学校教諭は、英語を話すことのみならず、英語外活のあるべき授業がイメージしにくいことを不安な点にあげているのにたいして、ALTは、小学校教諭との関係性の構築を不安な点にあげており、両者に相違が確認された。

5. 考察

より効果的な校内研修を構築していくためには、分析結果で確認された4者の認識のうち、特に相違のみられた部分に着目し、相違点を埋めていくための研修制度のあり方を提案していく必要があると考えられる。

謝辞

本研究は、平成27年度関西大学若手研究者育成経費の助成を受けたものである。

参考文献

- 池田真生子 (2008). 「ALT とのティーム・ティーチングを支えるもの：小学校英語におけるケース・スタディ」『小学校英語教育学会紀要』第9号, pp. 47-54.
- 池田真生子 (2012). 「教員研修の成果を定着させるためには？：小学校外国語活動でのケース・スタディ」関西言語文化教育研究会研究論集委員会 (編)『言語文化教育実践』pp. 179-193. 金星堂.
- 粕谷恭子 (2008). 「担任をささえる教員研修のあり方」『小学校英語教育学会紀要』第9号, pp. 9-14.
- 小林美代子・宮本 弦 (2007). 「公立小学校教師たちの英語指導観 — 公立小学校教員への意識調査より —」小林美代子 (編)『早期英語教育の指導者要請および研修の実態と将来像に関する総合的研究』平成16年~18年度化学研究費補助金基盤研究(B)(2)平成18年度研究成果報告書, pp. 37-86.
- 西條剛央 (2007). 『ライブ講義・質的研究とは何か SCQRM ベーシック編』新曜社.
- 西條剛央 (2008). 『ライブ講義・質的研究とは何か SCQRM アドバンス編』新曜社.



外国語教育メディア学会
(LET)

第56回全国研究大会
(LET2016)



The Japan Association for
Language Education &
Technology (LET)
The 56th National
Conference
(LET 2016)

外国語授業改革：
次世代につなぐ授業の形と役割

発表要項

主催：外国語教育メディア学会(LET)

後援：文部科学省・東京都教育委員会

期日：2016年8月7日(日)～9日(火)
会場：早稲田大学 早稲田キャンパス11号館

Foreign Language Education
Reform:
Forms and Roles in the
Next-Generation Classroom

Conference Proceedings

The Japan Association for
Language Education & Technology (LET)
Under the sponsorship of the Ministry of Education and
Tokyo Metropolitan Board of Education

Sunday, August 7 - Tuesday, August 9, 2016
Waseda University Waseda Campus Building 11

外国語教育メディア学会(LET) The Japan Association for
Language Education & Technology (LET)

第56回全国研究大会 The 56th National Conference
LET2016 (LET 2016)

発表要項 Conference Proceedings

2016年8月7日発行 Published on August 7, 2016

編集・発行 外国語教育メディア学会(LET)

代表者 柳 善和

発行所 外国語教育メディア学会(LET)

第56回全国研究大会実行委員会事務局

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

関東学院大学建築・環境学部共通科目 奥研究室

oku@kanto-gakuin.ac.jp

印刷所 倉敷印刷株式会社

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 4-16-17

TEL:03-6658-0031